

農作業コツのコツ

【第10号】

令和7年6月21日
福光農業改良協議会
砺波農林振興センター南砺班
福光農業協同組合 営農部

早生

幼穂形成期後は飽水管理を徹底し、稲体活力の維持に努めましょう。

早生の茎数は平年より多く、中生・晩生の茎数（葉齢基準）は平年並みとなっており、生育は概ね順調ですが、ほ場による差が大きくなっています。
収量・品質の確保に向けて、健全な稲体（適切な茎数や葉色）に誘導するため、生育状況に応じた穂肥施用や水管理（**間断かん水、飽水管理**）を徹底しましょう。

中生・晩生・直播

中干し後は間断かん水で、根に酸素と水分を供給し、根を伸長させましょう。

水稻の生育状況

（6月17日：福光農業改良協議会 良質米実証田生育調査結果）

品種名	田植日		草丈(cm)		株当たり茎数(本)		葉齢(葉)		葉色		幼穂形成期		
	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7	R7	R7	平年	R7	平年	
とみちから	5/3	5/3	45.2	48.3	22.8	27.7	10.0	10.3	4.5	4.4	(6/25)	6/24	
五百万石	5/5	5/4	39.0	40.1	23.3	20.6	10.8	10.7	4.4	4.4	(6/26)	6/26	
てんたかく81	5/4	5/4	40.2	41.3	28.0	26.0	10.1	9.7	4.4	4.4	(6/24)	6/26	
コシヒカリ	5/14	5/14	36.3	37.4	18.1	20.5	8.7	9.0	4.4	4.3	—	7/10	
てんこもり	5/11	5/9	30.8	32.6	28.5	27.8	10.0	9.8	4.4	4.5	—	7/13	
密苗	てんたかく81	5/4	5/4	37.9	37.8	31.4	25.1	9.7	9.4	4.3	4.4	(6/25)	6/26
	コシヒカリ	5/19	5/16	28.5	33.0	15.2	19.2	7.7	8.5	4.2	4.3	—	7/13
	てんこもり	5/9	5/8	35.1	31.0	31.4	28.8	10.0	9.4	4.5	4.3	—	7/14

※てんたかく81の平年値はR4～6年の値（調査筆数：各品種2筆）

水稻

1 穂肥施用

(1) とみちから

①**肥効調節型基肥体系**（基肥：LPs とみちから専用）の場合

・原則、穂肥の施用は不要です。

・ただし、**葉色4.2**を下回ったら直ちに**BB穂肥35号**を**10kg/10a**施用しましょう。

②**分施肥体系**（基肥：基肥555）の場合

1回目は幼穂長1mmの時期（5月3日田植えで6月23日頃）

◇とみちからの穂肥施用の目安

施用時期	1回目	2回目	3回目
	幼穂長1mm時	1回目の7日後	2回目の7日後
10a当たり施用量 (肥料：BB穂肥35号)	13kg	15kg	15kg

(2) 五百万石

①**肥効調節型基肥体系**（基肥：LPs 五百万石専用）の場合

原則、穂肥の施用は不要です（葉色が薄い場合は、お問い合わせください）。

②**分施肥体系**（基肥：基肥555）の場合

必ず幼穂長を確認し、**1回目穂肥は幼穂長10mm頃**（5月5日田植えで7月1日頃）に施用しましょう。

◇五百万石の穂肥施用の目安

施用時期	1回目	2回目	1回目穂肥時の目標生育量※	
	幼穂長10mm時	1回目の7日後	葉色	茎数
10a当たり施用量 (肥料：BB穂肥35号)	13kg	15kg	3.8～4.0	20本/株

※1回目穂肥時に葉色が濃い場合は施用時期を遅らせ、茎数が多く、葉色が薄い場合は施用量を減らしましょう（詳しくは各地区の営農指導員にお問い合わせください）。

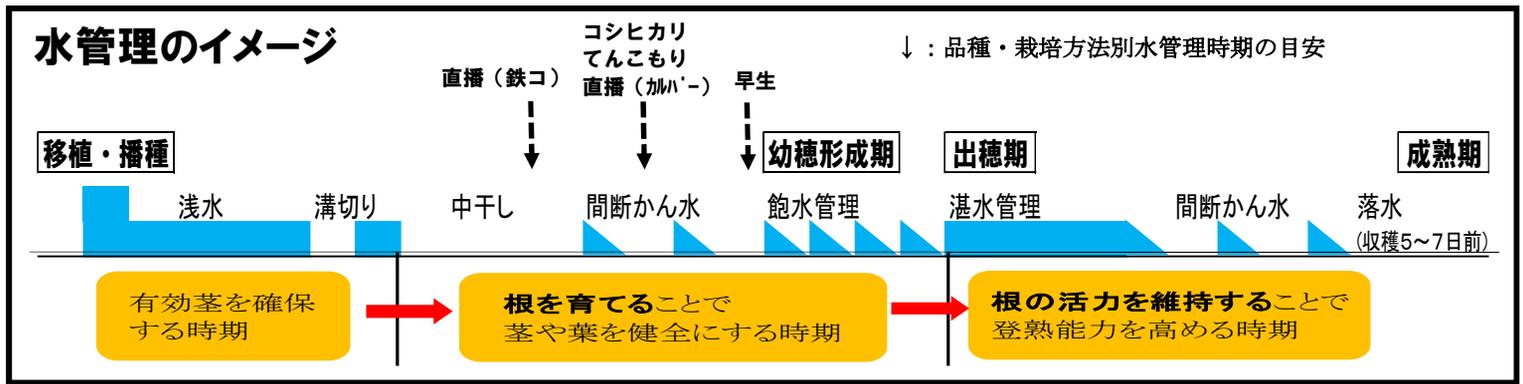
(3) てんたかく81

○**肥効調節型基肥体系**（基肥：Jコート早生専用）の場合

・安易な追肥は倒伏を招くので、**原則、穂肥の施用は不要**です。

・ただし、葉色4.0を下回ったら直ちにBB穂肥35号を10a当たり7kg施用しましょう。

2 水管理



(1) とみちから、五百万石、てんたかく 81

- ・ 稲体の活力を維持するため、幼穂形成期後は出穂期まで溝や足跡に水が残る程度の湿潤状態を保つ**飽水管理**を行い、**干しすぎに注意**しましょう。



飽水管理
足跡の水を切らさない！

(2) コシヒカリ、てんこもり、直播

- ・ 中干し後は**間断かん水**を行い、幼穂形成期頃までに田面の硬さが足跡の深さ 3 cm 程度となるように干しましょう。

3 病虫害防除

(1) 斑点米カメムシ類

本年も斑点米カメムシ類が**多発**しています。カメムシ類が発生しにくい環境づくりや、基本防除を徹底しましょう。

◇カメムシ類が発生しにくい環境づくりのポイント

- ①畦畔や雑種地のイネ科雑草の穂は、カメムシ類の好適なエサとなるので、穂が出ないように草刈りを徹底しましょう。
- ②本田内のノビエやホタルイは、カメムシ類による被害を助長するので、除草に努めましょう。
- ③麦跡ほ場は、雑草が繁茂しないように管理するとともに、積極的に大豆や園芸作物等の栽培を行いましょう。

一斉草刈り日 6月28日(土)、29日(日) 【草刈り運動期間 6月27日～7月6日】

(2) 随時防除

- ・ **葉いもち**の病斑が見られたら直ちに防除を行いましょう。
 - ・ **紋枯病**は、穂ばらみ期に病斑が見られたら防除を実施しましょう。
(早生品種や「てんこもり」、前年発生が多かったほ場で発生しやすいため注意)
- 防除適期は、早生品種が出穂 14 日前頃、「てんこもり」が出穂 7 日前頃です。

※「営農とくらし」 P56～57 参照

大豆

1 培土

- ・ 晴れ間を見て確実に**培土**を2回行いましょう。
- ・ 培土でできた溝はしっかり連結させましょう。

2 雑草防除

- ・ 培土後に雑草が残った場合は早めに除草剤を散布しましょう。
※培土前に雑草が多発している場合やほ場が軟らかく培土できない場合は、培土前に除草剤を散布しましょう (※「営農とくらし」 P95 参照)

◇培土の時期と高さの目安

- 1 回目は本葉 2～3 葉期 → 子葉が隠れるまで (播種後 20～25 日頃)
- 2 回目は本葉 4～5 葉期 → 初生葉が隠れるまで (播種後 30～35 日頃)

農作業中の熱中症を予防しましょう！！

- ・ 毎年、約30名の方が農作業中の熱中症により亡くなっています。
- ・ 熱中症による死亡事故は6月にも発生しています。



←熱中症対策
パンフレット